山東視察

卓上小談

鐵道省工事課長　橋　本　敬　之

支那南北戰亂直後の膠濟鐵道と山東方面を視察して七月下旬歸朝した橋本氏の小談である、山東は南滿洲と倶に日本に關係の深い地方である。
（文責在記者）

○山東省は三千年の昔から支那の文化の中心をなしてをる處で、孔子樣も孟子樣も皆此の地から出られた、今日までも此等聖人の廟は大切に保存されてをります。

○産物は大豆、小麥、落花生、家畜類であるが人口の密度の大なる事は日本內地の最大密度を有する香川縣と殆んど同一狀態にある、それにもかゝわらず物價の安い事は驚くべきもので、普通の人夫賃が一日三十五錢、巡査や驛夫の日給が三十錢である。

○常に戰亂の巷と化して荒らされるから農村の疲弊は甚しいもので見渡す限り荒寥たる有樣で恰度中央アジアのエルサレム邊りの風物か、ギリシヤの廢墟を思ひ出す樣である。

○人口は常に過剩し、食量は極度に缺乏してをる、而して工場らしい煙突が鐵道の沿線に見當らない位であるから年々此地の住民が南滿州方面に數十萬人も移住するさうである。

○産業として注目すべきは石炭の採掘である山東州の淄川から博山附近は二十億噸の埋藏量と稱され、淄川の炭坑は目下は日支合辨で經營されてをる。

○石炭は一帶に豐富だと稱されるが、現に閻錫山氏がモンロー主義を標傍してをる山西省方面には二千億噸の埋藏量ありと云はれ、其他陝西、甘肅、青海等の奧地にも石炭は殆んど無盡藏であると云はれる、此等の石炭は何れも遠からず開發される時期が來るもので、之を運輸するものは實に濟南青島間の膠濟鐵道の使命である。

○青島は天然と人工と相待つた支那に於ける唯一の良港である、此良港と膠濟鐵道とは實に不可分の使命を以つてをるもので、將來の支那奧地の產業を拓くべき重要な線路である

○膠濟鐵道は歐洲大戰の結果、日本帝國が多大の犧牲を拂つて一時獨逸の手より占領してをつたが、大正十一年の國際聯盟の條約により之を支那に返還した、其代償として支那政府は我國に四千萬圓の借款をした事となつてをる而して年々六分の利を日本に支拂ふ事になつてをるが既に一ヶ年分二百四十萬圓が未濟で滯つてをる。

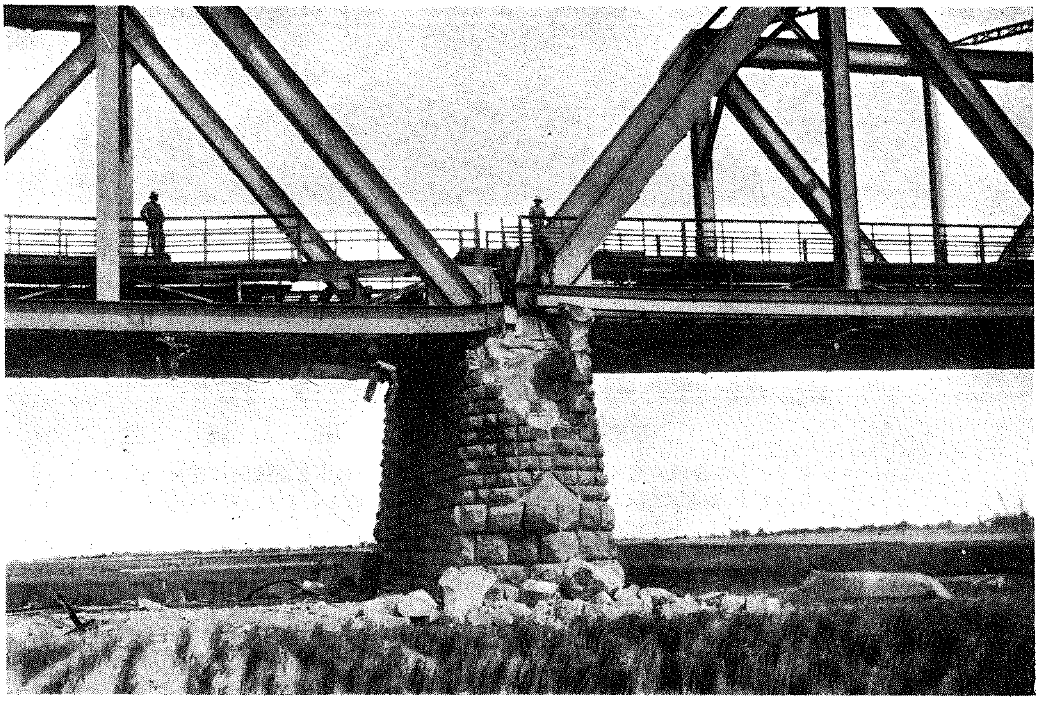
○それで膠濟鐵道は日本が監督する立場から運輸主任に兒玉事務官、會計主任に佐伯事務官が我が鐵道省から赴任してをる、其他各課に日本人が十人位、之は私契約で往つてをる

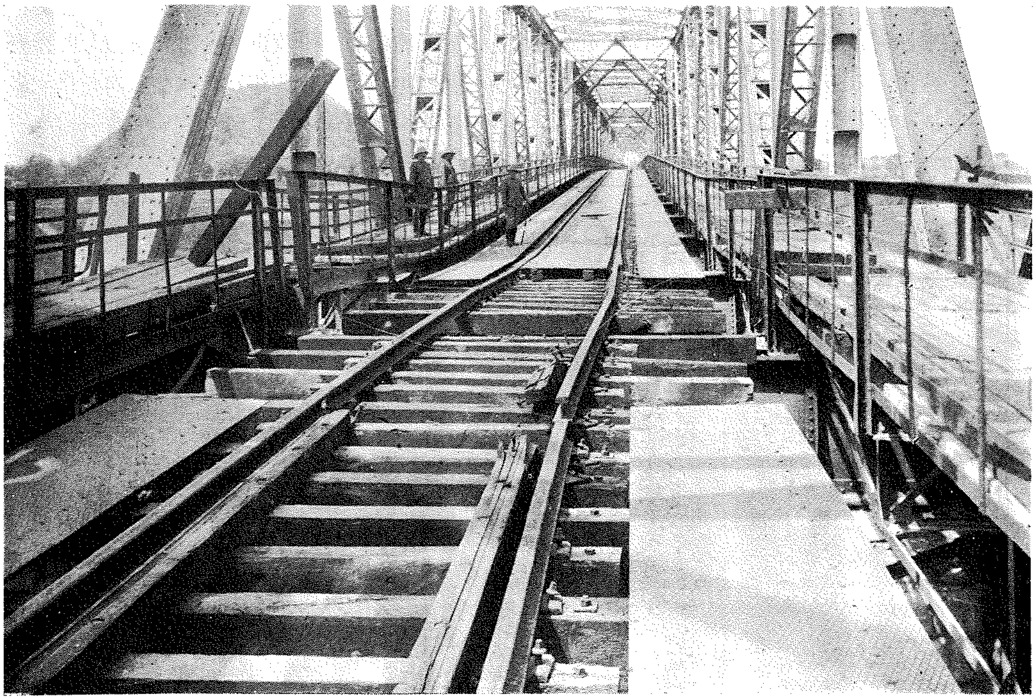
○今年春の南北戰爭に日本が出兵した際、青島から濟南まで迅速に我軍の輸送が出來たのは實に兒玉事務官の努力であつた。

○膠濟鐵道は廣軌の複線で獨逸人の設計になつたもので鐵道としては完全なものである、運輸上の經營が支那の管理に移つてから不良な狀態にあるが、目下橋梁と停車場の改良工事に着手してをる、橋梁はE 26をE 50に改良しつゝある。

○鐵道工事上に特に見るべきものもないが、物價と勞銀の安い事は最も注意すべき點である、例へば土工費の如き一立坪平均九十錢位である、混凝土は材料費が砂利、砂ともに一立坪二圓七十錢位、手間が五圓、セメントは內地と大差なく一樽五圓五十錢位である。

○次の寫眞二枚は視察の一景である。





本年四月下旬支那南北戰爭の際に北軍が退却の時津浦線黄河の大鐵橋を爆破するつもりでカンチレーバーの 300呎スパンのアンカーエンドにダイナマイト 100キロを設置して爆發した爲め線路は約一米沈下した、此の不通ケ所が日本兵に依り監視されてをる。

(1) One of railway bridge by Chinese Civil War which seems to occure periodically every year when it is warm and comfortable.

(2) These pictures show Shin-ho line railway-bridge broken by them.